

皆様、おはようございます。

暑い暑いと言っていた猛暑の夏でしたが、ついに8月も20日を過ぎました。

時の移り変わる中、私たちは変わらない主の御言葉に今日も目を留めたいと願います。

先週は、「昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。」とのことで、旧約聖書の信仰者たちが次々と登場しました。

さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。

昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。

信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。

信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

信仰こそが私たちにとってなくてはならないものです。

今日はこの信仰の中、私たちは主によって訓練を受け、成長するものとなり、忍耐と共にこの世界を走り抜ける競争に召されているということが記されてあります。

1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。

信仰に生きた目覚ましい信仰の先人たちの姿を見、私たちもまた信仰のうちに生きていきたいと思いますが、それを挫折させようとする力が働きます。それが「いっさいの重荷と、からみつく罪」の存在です。足を引っ張って過ちを犯させようとするからみつく罪の力と妨げ、妨害から私たちはどうやって逃れることが出来るのでしょうか。どうしたら私たちはわたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬくことが出来るのでしょうか。

2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないうで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

「自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないうで十字架を忍び、神の御座の右

に座するに至った」お方、この方こそが信仰の導き手リーダーであり創始者パイオニアであり、完成者です。

イエス様は私たちの救いのためにそれを喜びとして、恥をもいとわず、十字架の苦しみを忍び、ついに天の神様の右の玉座にお座りになられました。

私たちのために、罪のない御子イエス様がここまで苦しみ、忍ばれ、栄光の道を開いて下さいました。

3 あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。

いっさいの重荷と、からみつく罪のゆえに、現実世界の中の熾烈な働きかけによって、私たちは弱り果てて意気消沈してしまいます。しかしイエス様は私たちのために耐え忍ばれました。

私たちが「いっさいの重荷と、からみつく罪」の中に沈みそうになる時、何が私たちの助けになるのでしょうか。それは、神の御子が、私たちを罪から救うために、それを喜びとして恥をも十字架の苦しみを絶え忍び、罪びとらの反抗と憎しみを耐え忍ばれたお方の事を思い起こすことです。

この方こそ信仰の導き手であり、またその完成者です。この方と共に歩むとき、私たちもまた、救いと祝福の中を進むことができます。

一体、私たち人間にはどれほどの「いっさいの重荷と、からみつく罪」による影響があるのでしょうか。種が芽を出し、成長するためには、どれほどの守りが必要でしょうか。

岩地であったり、土が浅かったり、茨が生えたりするようにして、私たちには様々の環境の中に振り回され、「いっさいの重荷と、からみつく罪」の中に弄ばれます。

4 あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。

罪と取り組んで戦う時、この身に傷を負い、ある者は命を落とす、そういう戦争のような中を私たちは耐えて行かなければならないのです。悪は私たちの敵であり、私たちの内に罪を滑り込ませて私たちを墮落させようとします。力なきものとしようとします。しかし私たちは血を流すまでにこれに抵抗しなければなりません。しかしどうしてそこまで私たちは信仰のために過酷な道を進まなければならないのでしょうか。信仰とはかくまでも厳しいものなのでしょうか。

5 また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れて、「わたしの子よ、主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。

6 主は愛する者を訓練し、受け入れるすべての子を、むち打たれるのである」。

今日のこの箇所には、7回も「訓練」という言葉が出てきます。

この悪魔の企ての中、「いっさいの重荷と、からみつく罪」に追い迫られ、私たちが血を流すまでに格闘し、叫び声をあげて苦難を忍耐する、その道は「わたしの子よ、主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。主は愛する者を訓練し、受け入れるすべての子を、むち打たれるのである」との箴言の御言葉の通りであることがここに宣べられます。

箴言 3:11 わが子よ、主の懲らしめを軽んじてはならない、その戒めをきらってはならない。

12 主は、愛する者を、戒められるからである、あたかも父がその愛する子を戒めるように。

13 知恵を求めて得る人、悟りを得る人はさいわいである。

14 知恵によって得るものは、銀によって得るものにまさり、その利益は精金よりも良いからである。

良きものを与えるための神様のトレーニング、子育て、これが「訓練」です。主がその子を愛するが故の子育てです。

7 あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。

罪が、悪が私たちに押し迫るように考えていました。しかしこれは神様によるトレーニングでした。神様が子を愛し、子を守り、子を育てるための、有意義な、有益な神様による機会でした。本当に自分が神様の子として取り扱われているが故の苦しみでした。

神様を知らなければ、耐えられない苦しみであったかもしれません。その苦しみの意味を問うても、唯々打ち寄せる数多くの苦しみの意味が分からず、乗り越えるすべもなく、茫然自失となっていたかもしれません。しかし今、私たちは、神様を信じることにより、すべての苦しみには意味がある、「いっさいの重荷と、からみつく罪」も、神様の手の中にあっては逆手に取って私たちのための、「わが子よ」と呼んでくださる方の養育、訓練の機会とされたことと知ることが出来るのです。

イエス様は恥をも忍ばれ、十字架を耐え、私たちの救いのゆえに喜んで耐え忍んでくださいました。このお方の私たちへの愛と祈りを考え、私たちへの患難は、希望へと変わることを信じて進みたいと思います。

ローマ 5:1 このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

5:2 わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、

5:4 忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。

5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さったのである。

12:8 だれでも受ける訓練が、あなたがたに与えられないとすれば、それこそ、あなたがたは私生子であって、ほんとうの子ではない。

9 その上、肉親の父はわたしたちを訓練するのに、なお彼をうやまうとすれば、なおさら、わたしたちは、たましいの父に服従して、真に生きるべきではないか。

10 肉親の父は、しばらくの間、自分の考えに従って訓練を与えるが、たましいの父は、わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるために、そうされるのである。

今日私たちは、神様が与えて下さる「訓練」について考えてまいりました。

訓練は私たちの成長には無くてはならないものです。「いっさいの重荷と、からみつく罪」による誘惑と、現実世界によるあらゆる困難と葛藤と恐怖、それは私たちを苦しめ、力を失わせるものであり、私たちは戦争状態になって血を流すほどにこれに抵抗しなければなりません、そこには悲壮感がありません。なぜならそこをイエス様がすでに通って下さったからです。そして勝利を得て下さったからです。

ヨハネ 16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

たましいの父は、肉にあった父よりもはるかに尊く力強く訓練を与え、私たちがいつも生き生きと生きるように、命へと立ち帰るようにと導いていて下さり、益のため、ご自身のきよさにあずからせるために私たちに尊い訓練を与えていて下さいます。

11 すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。

しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。
12 それだから、あなたがたのなえた手と、弱くなっているひざとを、まっすぐにしなさい。
13 また、足のなえている者が踏みはずすことなく、むしろいやされるように、あなたがたの足のために、まっすぐな道をつくりなさい。

主にあって、萎えた手を伸ばし、曲がっていて力が入らず、歩けなかった足を伸ばして健康に生きることが出来ます。

主にあって、曲がり道、急な坂はまっすぐな道に作り変えられます。

主の子育ての訓練を愛し、道となって下さったイエス様を日々思い起こし、信仰に生きる道を切り開き、リードして下さり、そして完成にまで導いて下さるお方を頼みとして今週も進んでまいりたく願います。

12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないうで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

12:3 あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。救いにより神様を天のお父様と呼ぶことの出来る幸いを感謝いたします。そして天のお父様は、愛情深いお父様でおられるがゆえに、私たちを子として扱い、訓練し、力強く成長させてくださいますから、ありがとうございます。御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないうで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになった、信仰の創始者であり完成者であ

るイエス様を見つめ、成長を目指して進みます。「主に望みをおく人は
新たな力を得驚のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩い
ても疲れない。」とのお言葉をありがとうございます。私たちの家族と、
地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。ア

ーメン